



2022年7月29日

各 位

会 社 名 三菱倉庫株式会社
代 表 者 名 代表取締役 社長 藤倉 正夫
(コード：9301、東証プライム)
問 合 せ 先 執行役員経理部長 稲毛 尚之
(TEL 03-3278-6611)

業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向を踏まえ、2022年4月28日に公表しました2023年3月期第2四半期（累計）連結業績予想及び通期連結業績予想について、下記のとおり修正することとしましたので、お知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正

(1) 2023年3月期第2四半期（累計）連結業績予想数値の修正（2022年4月1日～2022年9月30日）

	営業収益	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期 純利益
前回発表予想（A）	百万円 126,000	百万円 8,500	百万円 11,500	百万円 9,700	円 銭 120.01
今回修正予想（B）	144,000	10,700	14,700	12,000	148.47
増減額（B－A）	18,000	2,200	3,200	2,300	－
増減率（%）	14.3	25.9	27.8	23.7	－
（ご参考）前期第2四半期実績（2022年3月期第2四半期）	117,632	7,778	10,167	6,817	83.27

(2) 2023年3月期通期連結業績予想数値の修正（2022年4月1日～2023年3月31日）

	営業収益	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	百万円 250,000	百万円 16,800	百万円 21,800	百万円 21,400	円 銭 267.08
今回修正予想（B）	270,000	18,800	25,300	24,000	299.53
増減額（B－A）	20,000	2,000	3,500	2,600	－
増減率（%）	8.0	11.9	16.1	12.1	－
（ご参考）前期実績（2022年3月期）	257,230	18,144	23,151	17,892	219.47

2. 修正の理由

(1) 当第1四半期の連結業績は、物流事業で、倉庫、陸上運送、港湾運送及び国際運送取扱の各事業において貨物取扱量が堅調に推移したほか、国際運送取扱事業において海上・航空運賃単価上昇や為替円安の寄与もあり、期首予想(2022年4月28日公表の予想数値)に対する進捗率が高くなっており、当第2四半期以降についても、新型コロナウイルス感染症の再拡大の影響が懸念されるほか、下半期に海上・航空運賃市況の軟化に伴う収入の減速が予想されるものの、物流事業を中心に全体として比較的堅調に推移すると見込まれます。

ついては、こうした状況に鑑み、当第2四半期(上半期)及び通期の業績予想において、当第2四半期を中心に相応の増額修正を行うことといたします。

(2) なお、この修正後の通期(及び当第2四半期)の連結業績予想を前期(及び前年同期)との比較で見ますと、①営業収益は、(イ)物流事業で、倉庫及び陸上運送の両事業において、大阪・茨木5号配送センターの新規稼働や㈱キューソー流通システムとの業務提携等に伴う医薬品、食品等の取扱拡大が見込まれ、港湾運送事業において、コンテナ貨物の取扱量の増加が予想されるほか、国際運送取扱事業において、貨物取扱量の増加に加えて海上・航空運賃単価上昇等の寄与もあり、物流事業全体で増収が予想されるため、(ロ)不動産事業で、不動産賃貸事業において、前期に同感染症の影響により臨時休業を余儀なくされた商業施設の来場者数の回復が予想される一方、東京地区の賃貸オフィスビルの空室率の上昇が予想されるほか、下半期においてマンション販売事業における販売物件の減少もあり減収が予想されるものの、(ハ)全体で約127億円、5%(当第2四半期では約263億円、約22%)の増収が予想されます。②他方営業費用は、(イ)物流事業で、貨物取扱量の増加等に伴う作業運送委託費等の増加が見込まれるため、(ロ)不動産事業で、下半期においてマンション販売物件の減少に伴う不動産販売原価等の減少が見込まれるものの、(ハ)全体で約121億円、約5%(当第2四半期では約234億円、約21%)の増加が予想されます。③この結果、営業利益は、物流事業で増益、不動産事業で減益となり、全体で約6億円、約4%(当第2四半期では、物流及び不動産の両事業で増益となり、約29億円、約38%)の増益が予想され、経常利益は、約21億円、約9%(当第2四半期では約45億円、約45%)の増益が予想されます。④また親会社株主に帰属する当期(四半期)純利益は、特別利益で、不動産賃貸ノンコア資産の売却による固定資産処分益の計上のほか、政策保有株式の縮減に伴う投資有価証券売却益の増加等が見込まれるため、約61億円、約34%(当第2四半期では約51億円、76%)の増益が予想されます。

(注) 上記の業績予想につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

以上